

文法を楽しく!!

「～て～」(2)

通信で習った項目: 「は」と「が」、他動詞・自動詞、受身、やりもらい、～てきた、～ていく、～ている、～てある、～ために、～ように、～たら、～と、**～て**、**～なくて/ないで**

前は「～て」の使い方について勉強しました。今回も「～て」についてもう少し考えます。

次の文はどこがおかしく感じられます。正しい文に直してください。

問題1

- その角を曲がって、100メートル先に銀行があります。
- 先週、車で学校へ行って、先生がすごく怒りました。

そうですね。答は次のようになります。

- その角を曲がると、100メートル先に銀行があります。
- 先週、車で学校へ行ったら(行くと)、先生がすごく怒りました。

「Sentence1で、Sentence2」は、S1のあとに、S2(主節)が引き続いて起こること(継起)を表します。「角を曲がる、そうしたら、銀行がある」というのは、動作が引き続いて起こっているように見えるので、「～て」でも良さそうですね。ところが、「銀行がある」は動作ではありません。また、「S1で、S2」が「継起」を表す場合、S1とS2の主語は同じでなければならないというルールがあります。

S1とS2の主語が同じで、両方の動詞が動作を表す次の文では、「～て」は自然になります。

- 彼はその角を曲がって、100メートル先に銀行を見つけました。
- ぼくは先週、車で学校へ行って、先生にすごく怒られました。

1”では、「角を曲がった」のも「銀行を見つけた」のも「彼」です。また、2”では、「学校へ行った」のも「怒られた」のも「ぼく」になります。

もう一度1と2に戻りますが、今まで述べた以外に、1と2が「～て」では不適切な理由がもう一つあります。それはS1とS2の意味的な関係です。1では「その角を曲がる」という条件・きっかけがあって、「100メートル

先に銀行がある」、2では、「車で学校へ行く」という条件・きっかけがあって「先生が怒った」という結果が生じています。このように、条件・きっかけと結果の関係を表すためには、「～て」ではなく、「～と」や「～たら」を用いる必要があります。

今までは「～て」の肯定形について意味用法を考えましたが、次に、「～て」の否定形について考えましょう。

● 「～て」の否定形

「～て」の否定の形は、動詞の場合と形容詞・「名詞+だ」の場合で異なります。

1. 動詞の場合

動詞の「～て」の否定形には「～ないで」と「～なくて」の二つの形があります。

1) 「～ないで」

動詞「～ないで」は次のように、「付帯状況」や「交替・代替」を表すときに使われます。(2)の「交替・代替」については、動詞「～なくて」も用いることができます。

- 朝ごはんを食べないで会社に行った。(付帯状況)
 - ?朝ごはんを食べなくて会社に行った。
 - 会議には森部長は来ないで、林副社長が来た。
 - 会議には森部長は来なくて、林副社長が来た。
- (交替・代替)

前前述べたように、付帯状況は「その動作がどのような状態で行われているか」を表します。「代替・交替」というのは、「その代わりに」という意味を表します。

2) 「～なくて」

動詞「～なくて」は上に述べた「交替・代替」の意味も表しますが、次のように、理由を表すときにしばしば用いられます。

- (3) 日本語がわからなくて、困りました。
(4) A: きのう授業に遅れちゃったんだ。
B: どうしたの。
A: いつも通り、家を出たんだけど、バスが来なくて……。
B: タクシーに乗ればいいのに。
A: タクシーも来なくて、本当にいらいらしたよ。
B: それで、遅れたのね。



(3)では、日本語がわからないために困り、(4)ではバスが来なかったために、Aさんは授業に遅れたり、いらいらしたりしました。(3)では「日本語がわからなくて」、(4)では、「(バスが)来なくて」が理由を表しています。

では問題2です。次の文はどこがおかしいか考えてみてください。

問題2

- 書類の書き方がわからなくて、係の人に聞きましょう。
- お金がなくて、1000円貸してください。

みなさん、わかりましたか。

問題2の1と2に共通しているのはS2(主節)に「聞きましょう」「貸してください」と意志表現が来ていることです。意志表現というのは「(学校へ)行きたい・行こう・行ってください・行け」のように話し手の意志を表す表現のことを言います。では、S2を意志を表さない表現、無意志表現に変えてみましょう。

- 書類の書き方がわからなくて、全部は書くことができませんでした。
- お金がなくて、困りました。

S2(主節)を無意志表現にすると、文が適切になりましたね。「～ことができる/できない」「困った」は話し手の意志を表しません。

「動詞+なくて」が理由を表すためには、S2(主節)が無意志表現であることが必要になります。

理由を「動詞+ないで」で表すこともあります。S2(主節)に「困る・がっかりする・大変だ」などの感情や評価を表す動詞が来る場合が多いようです。しかし、くだけた話しことばに限られ、また、使えないことも多いので注意が必要です。

2. 形容詞・「名詞+だ」の場合

形容詞・「名詞+だ」の否定形は「～なくて」だけです。次のように並列(語や事柄を並べること)を表す場合と、理由を表す場合があります。

- (5) このかばんは大きくなくて、ちょうどいいサイズだ。(並列)
(6) 故障の原因が簡単じゃなくて、困っている。(理由)

(5)は並列を、(6)は理由を表していると言えます。しかし、並列か理由か区別のつかない場合も多いです。次の文を見てください。

- (7) このりんごは丸くなくて、まずそうだ。

(7)では、「丸くないから、まずそう」(理由)なのか、「丸くない、そのうえに、まずそう」(並列)なのか、判断がつきにくいです。

「～なくて」は「～て」と同じく、それ自体には理由の意味はなく、S2に来る語や意味的な関係で、並列になったり、理由になったりします。動詞の場合と同じく、S2(主節)に無意志表現(「可能動詞」や、「困る・心配する・安心する・驚く・びっくりする・いらいらする」などの話し手の気持ちを表す表現)が来ると、理由になりやすくなります。

参考文献

北川千里 (1976) 「「なくて」と「ないで」」『日本語教育』29号
市川保子 (2005) 『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

このコーナーの担当者：市川保子(日本語国際センター客員講師)
このコーナーについてご感想や質問があれば送ってください。「ヤスコの日本語ハウス」という個人のホームページを開いています。
英語の翻訳も付いていますので、ぜひ活用してください。ホームページのアドレスは、<http://homepage3.nifty.com/i-yasu/index.htm>です。